

トップ

教職員研修講座

講座紹介・受講者の声

センター研究紹介

ライブラリ・お役立ち情報

ハイライト:

「センターだより」が、Web版としてリニューアルし再登場しました。

センターが持っている旬な話題を満載して皆様に届けてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

目次:

教職員研修講座の状況	2
ここに注目！開催予定講座	2
講座紹介・受講者の声	3
センター研究成果	3
センター研究紹介	4
全教連青森大会レポート	4
おしらせ	4
ライブラリ・お役立ち情報	5

青森県総合学校教育センター センターだより

巻頭言

「センターだよりWeb版創刊にあたって」

「センターだより」Web版にアクセスしていただき、ありがとうございます。

当センターでは、教職員や一般の方々に、当センターが実施している研修講座の様子や研究の内容などについて知っていただき、当センターを身近なものとして感じていただけるよう、この度「センターだより」Web版を発行することといたしました。

今年度は、7月の創刊号に続き、11月と2月に発行する予定です。

記事内容は、

研修講座の実施状況や受講者からの感想や意見
学校教育に関する研究
教育相談の状況及び情報
ライブラリの紹介と教育情報

となっております。

各回とも、その時機に応じた内容を提供したいと考えておりますので、是非、引き続きご覧くださるようお願いいたします。

昨今の社会の情勢や教育を取り巻く環境は、大変厳しいものがあります。そのような中であって、学校教育には、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育成することが強く求められております。教育とはすなわち人づくりであり、現在の社会が教育に求めている期待は、以前にも増して大きくなっているものと思っております。

その期待に応えるためには、現場で子どもたちに直接向き合う教職員の力量を高めることが極めて重要です。教職員の皆さんには、専門性を高めるために日々研鑽に励んでほしいと願っております。

当センターは、今後とも教職員の資質能力の向上と学校の教育活動の支援に努めてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。また、当センターの事業を一層充実させていくために、皆様のご意見やご提言をお寄せいただければ幸いです。

夢はぐくむ教育を推進するために「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」



青森県総合学校教育センター
所長 水木 洋

学校の教育課題に対応した魅力ある講座を構築し、受講者数の拡大を目指しています。

職務研修・教科研修・教科外研修において、講座開催1か月前まで追加申込を受け付けています。

トップ

教職員研修講座

講座紹介・受講者の声

センター研究紹介

ライブラリ・お役立ち情報



青森県立美術館エントランス

今年度は、「K-ABCアセスメント」を加え、発達障害のある子どもの実態を把握する上で有効な2つの心理検査について、受講者のニーズに応じコース別の演習を中心とした講座にしました。

平成18年度 教職員研修講座の状況

【平成18年度研修講座申込状況】

年々申込者数等は、減少傾向にあります。教職員数の減少や日程が合わないことなどが理由として考えられます。当センターにおいては、学校の教育課題に対応した魅力ある講座を構築し、受講者数の拡大を目指しています。

【追加申込について】

職務研修・教科研修・教科外研修において、講座開催1か月前まで追加申込を受け付けています。希望する講座があれば、講座担当者まで、電話でお問い合わせください。

研修区分	講座数	申込者数等
初任者・新規採用者研修	41	168
経験者研修（5・10年）	16	624
職務研修	18	826
教科研修	59	1,162
教科外研修	66	2,424
特別研修	5	37
合計	205	5,241

【研修の様子について】

当センターの研修を身近に感じていただくため、研修の様子について紹介することになりました。全講座というわけにはいきませんが、より多くの講座内容をわかりやすく紹介していこうと思います。是非、今後の受講の参考としてください。

ここに注目！ これから開催予定の講座

「講座番号323 図画工作・美術科教育講座 [鑑賞]」 10/5～6開催

「鑑賞の授業をどうするのか」は、各学校でも様々な模索がされていると思います。

今回の講座の1日目は、県立美術館で研修を行います。

40人の受講者が2グループに分かれて、学芸員の方に助言を頂きながら、館内を見学し、美術館と連携した模擬鑑賞授業を実際に体験することができます。

講師には、奥村高明先生（国立教育政策研究所教育課程調査官）を迎え、ギャラリートークの技法の演習も予定しています。

2日目は、当センターに会場を移します。

奥村高明先生から、「図画工作・美術科における鑑賞授業の在り方」の講義の後、「美術館を利用して自分で鑑賞の授業を展開するためのワークシート作成」の演習をします。

すぐにでも授業に使うことができる理論的実践的な内容を、2日間の日程の中で研修します。

「県立美術館で会いましょう！」 青森県立美術館 <http://www.aomori-museum.jp/>

ご期待ください。

（義務教育課 杉本光世）

「講座番号706 特別支援教育心理検査実技講座」 10/17～18開催

学校において子どもを指導する際には、障害のあるなしにかかわらず子どもの実態を的確に把握することが基本となります。把握するための方法の1つとして心理検査があります。

本講座は、昨年度まで「WISC- 実技講座」として実施してきました。今年度は、「K-ABCアセスメント」を加え、発達障害のある子どもの実態を把握する上で有効な2つの心理検査について、受講者のニーズに応じコース別の演習を中心とした講座にしました。

以下に、各コースの概要について紹介します。

【WISC- 知能検査 基礎コース】

心理検査を初めて実施する方を対象として、検査の概要を理解するとともに、演習を通して検査の実施方法や基礎的な解釈を身に付け、指導の手がかりを見出せるようになることを目的にしています。

【WISC- 知能検査 解釈コース】

検査経験のある方を対象として、個々の事例における協議や演習を通して、検査結果を適切に解釈し、子どもの指導に生かせるようになることを目的にしています。

【K-ABCアセスメントコース】

「K-ABCアセスメント」は、昨年度まで「発達障害児研修講座」において1日の日程で扱っていました。今年度からは、2日間の日程で検査の概要や実施方法、採点方法、結果の解釈及びケース検討等を研修内容として実施します。

なお、2日目は講師に三浦光哉先生（山形大学教授）をお招きし、研修の充実を図っていきます。

（特別支援教育課 大瀬知子）

「講座番号603 教育相談初級講座」 6/15～16開催

この講座は、生徒指導において中核的機能を果たす教育相談の基本的な内容を学ぶための講座です。できるだけたくさんの方が受講できるように、同一内容の講座を年2回開催しています。

6月の講座では、教育相談の意義や発達を踏まえた子ども理解についての講義の後、小・中・高等学校で教育相談活動に取り組んでいる先生方の実践発表、また、豊富な研究・実践に裏付けられた鈴木由美先生（聖徳大学助教授）による「教育相談の考え方・進め方」の講義・演習を通して、117名の方が教育相談に関する基本的な知識や技能・態度について理解を深めました。

次回は、10/25～26に予定されています。 (教育相談課 菊地暁浩)

受講者の声

- ・今まで本当の意味で、子ども理解に努めていなかったということに気がつきました。話す言葉の背後にある気持ちができる教師になりたいと思いました。
- ・異校種の先生のお話を聞いて、子どもの成長を見据えた指導をしていくイメージがつかめました。また、実践発表に励まされ、自分もがんばろうという気持ちになりました。
- ・講師が話された、今の大学生の様子に驚くばかりです。担任している子どもたちに、しっかりとした対人関係力を育てることの大切さを痛感しました。

「講座番号802 表計算ソフト基礎講座」 7/6～7開催

この講座は、初めて表計算ソフトを活用する方を対象に、計算機能やグラフ作成機能、データベース機能など、基本操作を学んでもらう人気の高い講座です。

受講した先生方には、校務処理に表計算ソフトを活用してもらい、校務の効率化が図られるものと期待しています。年4回開催していますが、4回目はマクロ機能に関する内容が加わります。

1回目の今回は、八戸市総合教育センターを会場に開催しました。

講座では、成績一覧表の作成を中心に、知っていると便利な裏技的なキー操作も演習するなど、表計算ソフト活用の概略を理解いただけたと思っています。

(産業教育課 中村豊)

受講者の声

- ・とても勉強になりました。今まで疑問に思っていたことが一気に解決できました。
- ・今まで知らなかった世界を広げることができました。せっかく教えて頂いたので、是非、使いこなせるようにしたいと思います。
- ・ちょっとしたキー操作など参考になることがたくさんありました。データベース機能は学校でも使ってみたいと考えています。

センター研究成果

平成17年度のセンター研究の中から、学校教育で参考となる主な研究について、それぞれ研究の主題及び要旨を紹介します。

高校教育課

<主題> 高等学校における勤労観・職業観の育成をめざした取組の研究

<要旨>

進路をめぐる状況が大きく変化してきている今日、生徒が、自立した社会人として逞しく生きていくことができる教育の推進が求められている。進路指導に関する各校の「取組アンケート」の調査結果を踏まえながら、学校教育における勤労観・職業観の育成について考察した。

教育相談課

<主題> 通常学級におけるLDのある子どもの存在とその特性への気付きを高め、適切な支援につなげるための調査票の開発に関する研究

- 学習障害調査票簡便版の作成とその臨床的妥当性の確認 -

<要旨>

先行研究「学習障害の判断に必要となる心理教育的アセスメントに関する研究 簞 2003」の学習障害調査票の質問項目内容について因子構造を明らかにするとともに、各領域内における因子構造の分析結果及び基礎的学力を構成している要素を基にして、簡便で回答しやすい学習障害調査票簡便版の作成を試みた。その結果、LD児の高い抽出感度をもった6領域各8質問項目合計48の質問項目に絞り込むことができた。



教育相談初級講座

トップ

教職員研修講座

講座紹介・受講者の声

センター研究紹介

ライブラリ・お役立ち情報



表計算ソフト基礎講座
[八戸会場]

平成17年度のセンター研究の成果はCDに納め、県内各校へ5月に送付しています。

センターのWebには掲載されていませんが、将来的にはWebからアクセスできるようにしたいと思います。

各課で進めている研究は、学校教育の諸課題の解決に役立つ、先導的・実践的な研究として、概ね2年間で結論を導き出しています。

今年度は、「学校評価」「キャリア教育」「軽度発達障害」「適応指導プログラム」をキーワードとして研究が展開されます。

トップ

教職員研修講座

講座紹介・受講者の声

センター研究紹介

ライブラリ・お役立ち情報



全国教育研究所連盟総会・研究発表大会（青森大会）

全国教育研究所連盟総会・研究発表大会（青森大会）には、43都道府県168名の参加者があり、3分科会に分かれて行われました。

右欄の発表はその中の一部ですので、他にどんな発表があったのか知りたい方、または発表内容に興味を持たれた方はセンターまでお問い合わせください。

センター研究紹介

今年度、各課で進めている研究の主題及び目標を紹介します。
研究成果は、平成19年1月11日（木）の当センター研究発表会において発表する予定です。

義務教育課

- <主題> 『望ましい学校評価の在り方と教育課程編成に関する研究』
- <目標> 「学校評価システムの手引き」の活用状況と、「義務教育諸学校における学校評価ガイドライン」を検証することにより、望ましい学校評価の在り方と教育課程編成にかかわる課題を明らかにし、これからの学校組織マネジメントを考察する。

産業教育課

- <主題> 『産業教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究』
- <目標> 青森県の専門高校におけるキャリア教育の課題を提起し、農業、工業、商業、家庭などの学科の視点から、産業教育の改善や充実に資する指導内容及びその手法、在り方を考察する。

特別支援教育課

- <主題> 『軽度発達障害のある生徒へのセンターからの支援の在り方に関する研究』
- <目標> 県内高等学校へのアンケート調査の結果を通して、高等学校の軽度発達障害に対する理解とその支援の状況を調査・分析することにより、高等学校のニーズに沿った今後のセンターからの支援の在り方を明らかにする。

教育相談課

- <主題> 『不登校児童生徒への適応指導プログラムに関する研究』
- <目標> 体験活動を中心とした不登校児童生徒への適応指導に関するモデルプログラムの開発を行う。

全国教育研究所連盟総会・研究発表大会（青森大会）レポート

6月1日～2日、全国教育研究所連盟総会・研究発表大会が、当センター主管で行われました。この大会は、連盟に加盟する教育研究所等の研究計画、調査研究及び活動等について、相互交流を図るとともに、我が国の教育に関する研究調査の充実を目的として開催されています。本大会の研究発表は13本、その中から、今日的課題をテーマに調査研究し成果をあげた2つの発表の要旨を紹介いたします。

（教育相談課 村上昌隆）

「英語教育における実践的コミュニケーション能力育成に関する調査研究」
～ 中学校・高等学校を通して英語を話す力を伸ばす指導の在り方～

富山県総合教育センター 研究主事 丹羽康雄

本研究は、生徒の実践的コミュニケーション能力を育成するために、中学校と高等学校とのつながりを重視した指導の在り方を探ることをねらいとした。具体的には、英語を話す力を伸ばすことを目的とした中学校・高等学校の6年間を見通した指導計画を作成し、その計画に基づいた効果的な指導の在り方について研究した。

「教育活動全体に機能する生徒指導の在り方」
～ 「パワーアップシート」を活用したやる気を引き出す生徒指導～

秋田県総合教育センター 指導主事 渡部学・赤坂亨

本研究では2年間をかけて、各校の生徒指導の機能状況を把握した上で、各状況に応じ、「生徒指導の機能論」をベースにした対応の指針を示したいと考えた。各教科・領域等の中で、あるいは教育活動全体を通じて、「どうすれば生徒指導が十分に機能するのか」という問いに対する答えをねらいとした。各学校が、『生徒指導に関する調査』から自校の生徒指導の機能状態を数値とレーダーチャートで把握できるように『パワーアップシート』を開発した。

お知らせ

～ 特別支援教育相談セミナーを開催します～

当センターでは、毎年「特別支援教育相談セミナー」を開催しています。今年度は、9月2日（土）実施の小賢悟先生（明星大学助教授）による「社会性を育てるために - ソーシャルスキルトレーニングを通して - 」の講演を皮切りに11月11日（土）、12月9日（土）と、3回の開催を予定しております。

県内の方はどなたでも参加することができます。この機会に、障害のある子どもや特別支援教育について、理解を深めていただきたいと考えております。

参加のお申し込みなど、詳しくは当センターWebページのNewsをご覧ください。

（特別支援教育課 成田光順）

～ 新着図書・ライブラリ紹介 ～

今年度第1次購入分の新着図書の一部をご紹介します。各教育・研究分野の最新情報やすく役に立つマニュアルなど、皆さまのご要望にお応えできるよう充実させていきたいと考えております。ここで紹介した以外にもたくさんの新着図書がありますので、どうぞご利用ください。

詳しくは、センターWebページ「お知らせ/図書・ソフトウェアライブラリ」内の「平成18年度新規購入図書一覧(1次)」をご参照ください。

(高校教育課 高橋美和子)

書名	発行・出版社	編著者
日本の教師再生戦略	教育出版	千々布敏弥
新しい学校課題と授業の創造-確かな学力」向上を目指して-	文溪堂	北俊夫
教職研修スタートブック 全4巻	教育開発研究所	有村久晴他
授業にいかす-教師がいきるワークショップ型研修のすすめ-	ぎょうせい	村川雅弘
「静かに!」を言わない授業	東洋館出版社	西川純
わくわく理科タイム-不思議いっぱい!サイエンス-	東洋館出版社	日本化学会
心の物語	学習研究社	藤原哲夫
「未来の学び」をデザインする	東京大学出版会	美馬のゆり 山内祐平
デジタル社会のリテラシー	岩波書店	山内祐平
メディアの教育学 「教育」の再定義のために	東京大学出版会	今井康雄
育てにくい子にはわけがある	大月書店	木村順
高機能自閉症, ADHD, LDの支援と指導計画	ジアース 教育新社	森秀一郎
応用行動分析で特別支援教育が変わる	図書文化社	山本淳一 池田聡子
わどなど~ハッピー 子育て支援ブック~	弘前大学出版会	松本敏治
環境にやさしいのは誰? -日本とドイツの比較-	技報堂出版	Karl-Heinz Feuerherd



図書資料室
ソフトウェアライブラリ

トップ

教職員研修講座

講座紹介・受講者の声

センター研究紹介

ライブラリ・お役立ち情報

～ 教育情報システムの紹介 メーリングリスト・電子会議室編 ～

当センターが、インターネットを介して提供している「電子会議室」と「メーリングリスト」の利用について、お知らせします。

電子会議室は、インターネットを介して意見交換ができ、議事録をつけなくても、そのまま電子データとして記録できるメリットがあります。また、メーリングリストは、登録されたメンバー宛にメールを一斉送信できるシステムです。

どちらも簡単な手続きで、県内公立学校教職員及び教育機関等の職員の方が利用できます。詳細は、センターWebページ「電子会議室/メーリングリストの運用開始について」をご覧ください。

(産業教育課 幸山勉)

利用者からのメッセージ

電子会議システムは、IDとパスワードで認証されるシステムで、学校名・氏名が出ます。セキュリティがしっかりしている掲示板があればいいなと思っていた矢先に、センターの電子会議システムを知り使用させていただいております。

「学校で不要物品がありますよ、どこかの学校で引き取りませんか。」、「仕事のわからないことを教えてください。」等の質問・意見が投稿されています。

利用した学校からは、「学校間のコミュニケーションがとれてとても助かります。」「いろんな情報が共有できてとてもいいです。」という声がたくさん聞かれました。

青森県公立高等学校事務職員協会 情報研修委員会(青森商業) 山下達さん

電子会議室利用画面



メーリングリスト
編集画面

編集後記

ある著名な方が、技術革新を「一般的法則性の意識的適用」と言われたそうですが、これは、それまで説明のつかなかった、家内制手工業から工場制手工業に移行した際に生ずる生産量の向上を言い当てたことで、その筋の方々には有名な話です。手段や方法の革新が、物事のとらえ方に変化を与えることはしばしばありますが、ペーパーレス、情報処理の迅速化等、コストパフォーマンスが叫ばれる中、センターだよりがWeb化されたことも一つの技術革新でしょうし、一般的法則性を意識的に適用したよい例であろうと考えます。

さて、広報活動にとって重要なのは、情報の質であり、鮮度とされます。

コストパフォーマンスによって質が落ちた話はよく聞きますが、そのようなことにならないように、熱い思いの発信に努めたいと思います。

(広報委員会 奈良理央)

夢はぐくむ教育を推進するために「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」